

日吉大社自然観察倶楽部通信

No.10 ^{ひよしざくら} 日吉桜の会 その2

H24年2月26日

雪もちらつく寒さの中、14名の参加者と共に日吉桜の会の第二回目を行いました。以前に日吉大社境内にあり、今は失われた桜の品種である日吉桜を復活させる活動を続けています。

まず、神主の馬淵さんからあいさつを頂きました。(写真左下)



今は山王祭の準備期間でもあります。祭りと日吉桜の競演を頭に描きながら、会のこれからの予定を話し合いました。次の予定は、

4月7日の植藤造園での日吉桜見学会です。

日吉桜の名付け親であり、桜守として有名な(先代の)佐野藤右衛門さんの造園です。日吉桜に限らず、日本のいろいろな桜を見学することが出来ると思います。誰でも参加できますので、桜の好きな方は是非、問い合わせ、参加申し込みください。(連絡先は下記)

次に、坂本の辻井造園；辻井博行さんを講師に迎え、桜の植栽についてプロによる講義とアドバイスを頂きました。(右下の写真)

辻井造園さんは、日吉大社の摂社である唐崎神社の手入れをされています。

まずは、桜の基本的な知識から。

さくらとは穀物の神の依代を意味し、主に自生種・一重の里桜・里桜に分けられます。その中でも、日吉桜は自生種のヤマザクラの栽培品種です。上でも触れましたが、1937年に佐野藤右衛門さんによって名づけられました。数で言うと、桜の代表的な品種であるソメイヨシノは、全体の8割を占めるそうです。また、桜の寿命は、接ぎ木だと60~70年であるのに対し、種から育てると100年~1000年に延びるそうです。



それをふまえて、日吉桜を植え、育てていく上で大事なことは以下の3点です。



- ① 植栽環境の整備 (日照・土壌・配置)
- ② サクラの特質を知る (性質・根・植栽)
- ③ サクラの管理 (害虫・肥料・必要最低限の剪定・治療・害獣対策)

要約すると、①の桜の植栽環境の整備で大事な事は、サクラは日照を好む性質があり、8～10メートル程の間隔を必要とします。間隔が狭いと、成長が悪くなったり、病虫害の発生を招いたりします。また、土壌の乾燥と過湿に弱いので、水はけは良いが、水持ちも良い土に植えることが必要です。特に日吉大社では、地下水の関係で根腐れが心配されるという問題があります。

②の桜の特質では、サクラは浅根性(せんこんせい：浅い土壌に根を張る性質)があるので、踏圧を避ける点(→根元を踏まれない工夫が必要)。連作を嫌う点(以前に桜が植えていない場所に植栽する必要あり)。落葉広葉樹であるので、植栽時期は1月から3月上旬までが良い点などの説明を受けました。

他にも植栽に向けて、ネットや金網による害獣(主にシカやサル)対策・植栽地点の土質調査(硬度・水はけ・pH)・植栽地点の岩や雑草などを取り除く事・日吉大社の植生を壊さずに、境内の環境に溶け込む工夫などが必要になってきます。

辻井さんから頂いた宿題は、主に

- 1、植栽地の土づくり
- 2、肥料づくり
- 3、有機農薬づくり
- 4、支柱・防護柵
- 5、プランター栽培などで万が一に備える

の5点です。全てを完璧にこなす事は難しいですが、一つ一つこなしていく必要があります。その上、③のサクラの管理は植栽した後に始まります。そして、終わりが無いと言っても過言はありません。まだ、植栽するには時間があるので、会のメンバーが調べてきたデータを持ち寄ることにしました。「植えたら終わり」という訳にはいかないようです。

最後に、植栽の候補地で試し掘りをしました。右の写真がその様子です。最初は柔らかかったのですが、次第に石や岩が出てきました。それだけでなく、水道管の様にも見える木の根っこに突き当たりました。写真の左上に写っている木の根です。当たり前ですが、土の下は上から見ることは出来ません。掘ってみて初めて分かる事もあるようです。

それに、思った以上に重労働であることが分かりました。辻井さんによると、植え穴は、幅・深さ共に50cmは掘らないといけません。植栽場所が傾斜地である場合も考えると、簡単にはいきませんが、今回試し掘りをしたことで、植栽のイメージを深めることが出来て良かったです。日吉桜の復活に向けて、一歩ずつ進んでいますので、皆様の協力をよろしくお願いします。



連絡先・問い合わせ先：日吉桜の会・辻田良雄（大津市坂本6-2-33）

t e l ・ f a x 0 7 7 - 5 7 9 - 6 6 5 9

メール：k a m o h u r a 1 2 7 5 _ m u a @ m x . s c n . t v